なくせ公害・守ろう地球環境

要請趣旨

「公害の根絶と平和を求めて」を合言葉に1976年以来、全国の公害被害者によって取り組まれてきた全国公害被害者総行動は、公害被害者がたたかいに立ち上がり、イタイイタイ病、水俣病、大気汚染公害、薬害などで多くの成果を勝ち取ることによって、我が国の公害行政の前進に少なからず貢献してきました。

昨年は、関西電力大飯原子力発電所の運転差し止め判決が、また、東京電力福島原子力発電所事故では、うつ病を発症した自死女性の裁判で、東京電力の加害責任を厳しく断罪しました。10月には泉南アスベスト国賠訴訟で最高裁は国の責任を明確にする判決を言い渡しました。これらの判決は、「人の命と暮らしこそ最大の価値」である事を司法が共通して認めるものとなりました。

今日、公害は終わるどころか、2011年の「東京電力福島原発事故」による放射能汚染による被害をはじめ、土壌・大気・水質の汚染、新たな薬害や基地騒音の増大、アスベストによる健康被害のさらなる顕在化等々健康や環境の破壊が進んでいます。

4年前の福島原発事故は、福島の人々に取り返しのつかない被害を与えたばかりか、地震・火山・台風など自然災害頻発化とむすびついて、国民に底知れない恐怖を与えています。たとえば、PM2.5の問題は、大気汚染の新旧の被害を解き明かしつつあり、放射線やアスベストの被害も医学・科学の発展によって、さまざまな疾病との関連が解明されつつあります。公害や環境破壊は終わるどころか、新たな様相をもって私たちの前に立ち現われています。

また、地球温暖化の危機は環境を激変させ、人類の生存をも脅かすものとなっています。「温室効果ガス25%削減」の実現に向け、政府に対し産業部門のCO_2削減の義務付けを迫る課題も待ったなしです。

さらに今、政府と財界は環太平洋連携協定(TPP)の参加を表明していますが、国民の合意のないままTPPへの参加には反対です。

この一年余、政府による一方的な諸政策は、我が国を『戦争する国』へ導く道ではないかとの危惧が増大しています。戦争は最大の「環境破壊」というべき最悪の事態です。この動きに強く抗議するものです。

わたしたちは公害によって被害を受け、苦しんできました。「苦しみを子孫に味あわせてはならない」という強い思いから、次世代へ良好な環境を残したいと願う多くの人々と連帯して運動を積み重ねています。

「なくせ公害・守ろう地球環境」の実現を目指し、次の課題を要請いたします。

実行委員会参加団体

イタイイタイ病対策協議会
・神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会
安中緑の大地を守る会
水俣病被害者の会全国連絡会
水俣病被害者の会
新潟水俣病被害者の会
ノーモア・ミナマタ被害者・弁護団全国連絡会議
水俣病不知火患者会
新潟水俣病阿賀野患者会
千葉市公害患者友の会
東京公害患者と家族の会
川崎公害病患者と家族の会
富士市公害病友の会
みなと公害患者と家族の会
南区公害病患者と家族の会
四日市公害患者と家族の会
大阪公害患者の会連合会
尼崎公害患者・家族の会
神戸公害患者と家族の会
倉敷公害患者と家族の会
北九州市公害患者と家族の会
大牟田市公害患者と家族の会
大阪・泉南アスベスト国家賠償訴訟原告団・弁護団
首都圏建設アスベスト訴訟統一本部
九州建設アスベスト訴訟原告団・弁護団
瀬戸内の環境を守る連絡会
よみがえれ！有明訴訟原告・弁護団
川辺川利水訴訟原告団
道路住民運動全国連絡会
スモンの会全国連絡協議会
薬害ヤコブ病被害者・弁護団全国連絡会議
薬害イレッサ訴訟原告団・弁護団
第二次新横田基地公害訴訟原告団・弁護団
第三次嘉手納基地爆音差止訴訟原告団
名古屋新幹線公害訴訟団
カネミ油症統一原告団
「生業を返せ、地域を返せ！」福島原発訴訟原告団・弁護団
原発事故の完全賠償をさせる会
元の生活をかえせ・原発事故被害いわき訴訟原告団・弁護団
ふるさとを返せ・福島原発避難者訴訟原告団・弁護団
公害・地球環境問題懇談会
全国公害弁護団連絡会議
化学兵器被害解決ネットワーク